



カテゴリー: 防災探究

テーマ: 防災を探る(土地を知り、過去に学び、現在に活かし、より良い未来へ)

授業日:

2019年11月14日、(21日)、28日

担当者: 五島朋子、向雅生

1

- ①地震研究所の人たちがどのような研究をしているかの紹介
- ②地震の発生確率、断層、マグニチュード、震度の説明
- ③「津波堆積物調査」という地質学的調査により地震履歴が可能であるという説明
- ④「どのような場合に津波が起きますか？」
(Ans: 海で断層が動いたとき)
- ⑤津波、高波、高潮、洪水の違いを説明
- ⑥宿題の提示 (住んでいる地域の過去の災害を調べてくる (おうちの人に地図をみせて、話を聞いてみるようにうながす))



防災マップ原図 (日本の液状化履歴マップ 745-2008, 若松加寿江著、地震調査研究推進本部HPを参考に QGIS で作成)

2

各自調べてきたことを発表する (全員)
発表形式: エレベーターピッチ (1 分間スピーチで簡潔にまとめて話す訓練)

3

自分の住んでいる地域について感じた危機の度合いによって付箋の色を選ぶ
赤: 危険と感じた、黄: 少し危険と感じた、緑: 安全と感じた



4

防災マップに、自分の住んでいる地域の過去の災害（地震による揺れの被害、水害、液状化、その他の災害）を色別でシール貼りをしてもらう。

- 地震による揺れの被害
- 水害
- 液状化
- その他



学年の防災マップの完成

5

液状化の実験

〔用意するもの〕 クリアカップ、スクリュー管瓶（今回使ったものは6ccのもの）、川砂、水

①マンホールにみたてたスクリュー管と、家にもたてた皿ねじを、水を含んだ砂の上に設置する。

②液状化するまで揺らす（動画を参照ください）。

